

Morita
Mamoru
Report
vol.12
2023.12



京都と子どもたちの明るい未来を守る!!

R4年度 77億円 黒字決算

9月決算市会

財政

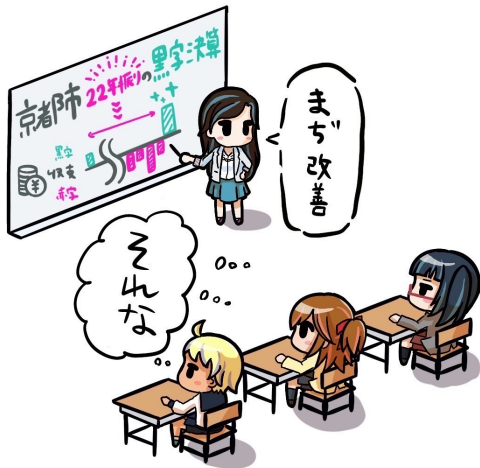
令和4年度決算
77億円の黒字

令和4年度決算は過去最高の77億円の黒字となり、また令和5年度当初予算も22年ぶりに収支均衡を達成したことから、京都市が財政破綻する可能性は極めて低くなりました。また公債償還基金（将来借金を返済するために積み立てているお金）の取り崩しも、9月市会の補正予算で35億円を返済し、残高は現在470億円となっています。今後は毎年度少なくとも35億円は返済し、令和20年度までに完済する予定としています。

では、どうして京都市は財政破綻すると言われたのか。数年前に始まった先行きの見えないコロナ禍により、京都市の税収は前年度より140億円も下落しました。もしかするとリーマンショックの時以上に税収が落ち込むかもしれない。さらには、感染症対策や経済対策などを講じなくてはならず、これまで以上に行政需要が高まる。これまで通りの行政運営を行えば、財政が行き詰まる可能性が出てくる。そこで市長は、「このまま何も改革を行わな

かったら、京都市の財政が破綻する可能性がある」と記者会見で述べられました。このショックなニュースは瞬間に広がりましたが、その際に「このまま何も改革を行わなかったら」という部分だけが取り除かれて「京都市の財政が破綻する」という部分だけが強調されました。あえて前段の部分を隠し、意図的に「京都市財政破綻」という部分だけを取り上げた方もおられました。が、今となっては仕方ありません。

その後、京都市は「行政改革計画」を策定し、収支均衡予算、黒字決算を達成しました。今後、計画的に公債償還基金の返済を行い、持続可能な京都市財政の確立を確かなものとするため、引き続き努力をしていきます。



ふるさと納税

納税

R4年度 過去最高
31億円の流入超過

師走に入り、頻繁に「ふるさと納税」のテレビCMを見かける季節となりました。これまで京都市は、返礼品競争により、ふるさと納税制度が歪められているという理由から、長らく競争には参入しないというスタンスを取っていました。しかしながら競争の過熱を受けて、R元年度に、流出超過額が37億円に達し、財政運営に支障を生じる事態となったことから、返礼品を充実させるなどの取り組みを行った結果、R3年度には流入超過に転換し、R4度は過去最高の31億円の流入超過となりました。

ふるさと納税は「あの商品が欲しいから、あそこの自治体に納税しよう」という制度ではありません。自治体は納税者の「志」に応えられる施策の向上を目指し、納税者は地方行政への関心と参加意識を高める。一人ひとりの貢献が地方を変え、そしてより良い未来をつくる。是非とも、ふるさと納税の意義を再認識する機会となって欲しいものです。

9月市会 市長総括質疑

提言 市バス運転士の 担い手不足対策

全国各地で、路線バスの廃止、減便が相次いでおり、京阪京都交通でも減便を実施するとの報道がありました。働き方改革により、ドライバーの労働時間に上限が課せられる「物流・運送業界を取り巻く2024年問題」、さらに2030年度には全国で3万6000人のバス運転士が不足すると言われている中、京都交通局においても、市バス運転士の稼働数が、必要人数を大きく下回っており、この対策について今後どのような施策を進めていくのかについて質疑を行いました。

私からは、現在65歳が上限となっている運転士年齢の引き上げや、女性運転士活用のための環境整備、そして何より給与面での処遇改善が必要であることを提言し、それに対して、坂越副市長から、市バス運転士の担い手不足は、最優先課題であり、あらゆる手段で取り組みを進めていく必要があるとの答弁がありました。

11月市会では、早速給与改定の補正予算が可決され、市バス運転士

に限れば、年収ベースで13万1000円の給与アップが実現しました。

昨今、公務員を叩いて溜飲を下げる風潮がありますが、それで市民生活が良くなるわけではありません。本質である「市民の足である市バス・地下鉄を将来にわたって維持し続けるために何が必要か」をこれからも議論していきます。

その他にも、市バス・地下鉄におけるクレジットカードタッチ決済の導入、全国で相次ぐ上下水道料金値上げに対する京都市の現状について質疑を行いました。



産業交通水道委員会 実地視察

視察 京都市卸売中央市場 新水産棟を視察

去る11月10日、産業交通水道委員会、京都市中央卸売市場第一市場新水産棟、及び水産せりの実地視察を行いました。

「せり」と言っても、京都市場の場合は、価格が徐々に競り上がる「上げせり」ではなく、各仲卸業者が希望額を1回出して最も高かった業者が落札する「一発せり」だということが印象的でした。

日本初の中央卸売市場として昭和2年に開設した京都市中央市場は、これまで95年以上もの永きにわたり、「京の食文化」を支えてきました。施設の老朽化が進む中、将来にわたって、市民に安心安全な生鮮食品を安定的に提供する衛生管理の向上や、物流の高度化などに対応するため、再整備に取り組みできました。環境負荷の低減や耐震性能の向上、歩行者専用通路の設置、また近隣施設との連携により「京都駅西部エリア」の活性化にも大きく寄与する施設となっています。これからも国内外に「京の食文化」の魅力を広く発信していきます。

森田守 プロフィール

昭和50年 6月15日生まれ
平成10年 同志社大学法学部法律学科卒業
平成10年 (株)セブン-イレブン・ジャパン
平成16年 二之湯智参議院議員秘書
平成27年 京都市会議員初当選(現在3期目)
令和 3年 自民党京都府連青年局長

家族 妻・娘3人・息子2人・猫4匹
趣味 キャンプ・スキー・マラソン

京都市会議員 森田守 事務所

〒615-0027
京都市右京区西院西三蔵町9-1
Connect西院2F
T&F 075-313-0023
M moritamamoru.kyoto@icloud.com



自民党



Homepage

Facebook

X

Instagram